

## 2021年度現勢調査の実施

2021年4月から5月に2021年度現勢調査を行いました。ただ、地区内のネットワークを中心とした情報収集であるために、十分な調査とは言えませんが（7月11日時点で東海地区からの回答が未回答のため、昨年度同様と想定して）聴覚障害教職員の総数は530名となりました。2020年度の退職者17名を昨年度の現勢調査報告の総数521名から差し引いて比較すると26名の増加になります。今年度の新規採用者は23名でした。

<全体の傾向>（統計データについては一部のみで割愛させていただきます。）

- ・全ての県の聾学校に聴覚障害教職員が在籍しています。
- ・職種別に見ると、教諭が全体の70%を占めています。その他、事務職など雇用形態の多様化の傾向があります。
- ・年齢別に見ると、年齢が把握できない分を除いて、20代が26%、30代が31%、40代が20%、50代が11%、60代が4%の割合となっています。20代と30代で全体の6割を占めています。
- ・県別に見ると、一番多いのは東京都と大阪府（共に59人）でした。
- ・管理職としての校長は、私立明晴学園と島根県立松江ろう学校の2名です。教頭は私立明晴学園と埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園と岡山県立岡山聾学校の3名です。また、首席教諭や主幹教諭となって、準管理職として学校運営に携わる教員もいます。定年退職後の再任用、新しい職種の設定など雇用形態の多様化がみられます。